

令和2年6月1日

透析施設管理医師および臨床工学技士各位

日本透析医会・日本透析医学会・日本腎臓学会  
新型コロナウイルス感染対策合同委員会  
委員長 菊地 勤  
公益社団法人 日本臨床工学技士会  
理事長 本間 崇  
日本災害時透析医療協働支援チーム  
事務局長 山家 敏彦

新型コロナウイルス感染対策合同委員会と日本臨床工学技士会の共同調査  
～透析医療機器および個人防護具に関する現況調査～(お願い)

謹啓 初夏の候、貴施設におかれましては益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。また、平素より当委員会および学会の運営にご協力賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、私どもの新型コロナウイルス感染対策合同委員会では、これまで新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の透析症例が発生した場合、本合同委員会に報告いただく「透析患者におけるCOVID-19 調査」を行い、毎週金曜日に各学会のホームページで会員各位に報告して参りました。

今回、日本臨床工学技士会との共同調査として、「透析医療機器および個人防護具に関する現況調査」を行うことにいたしました。ご承知のように、維持透析患者においては、入院治療が必須であり、個室透析を必要とすることが多いこと、非透析患者においては、COVID-19 による急性腎不全を合併して、急性血液浄化を必要とすることから、各施設においては出張透析や個室透析用の透析装置や RO 装置、持続的血液濾過透析(CHDF)装置の不足の訴えが、新型コロナウイルス感染対策合同委員会に届いておりました。

また、維持透析施設を含む透析現場では、平時より穿刺や返血では、個人防護具(PPE)の着用を推奨しておりますが、COVID-19 への対策では、透析室集団感染防止のために、より厳重なPPE の着用が必要となり、PPE を多く使用するため、PPE が不足しているとの声が多く聞かれます。

私どもの新型コロナウイルス感染対策合同委員会と日本臨床工学技士会では、この透析医療機器の需要やPPE不足の実態を把握して、今後のCOVID-19第2波に備えた対策を行うことは非常に重要と考えております。この共同調査の結果は、各学会のホームページなどを通じて公開するとともに、この調査に基づき厚生労働省に働きかけを行い、急性血液浄化を行う基幹病院や全国の維持透析施設の、COVID-19対策のお役にたてればと考えております。

つきましては、上記の内容についてご理解いただき、共同調査につきましてご協力頂きたくご依頼申し上げます。

何卒ご協力ご検討よろしくお願い申し上げます。

敬具

記

下記のURLよりアクセスいただき、情報入力シートに記入して登録ください。

<https://stopcovid19.jhat.jp/input>

令和2年6月1日(月曜日)～6月15日(月曜日)までをお願いいたします。

以上